

環境省・経産省、5月から断熱リノベで新たな補助

高性能建材による住宅の断熱リフォーム支援事業の概要

補助対象製品	補助率等	補助金の上限額
高性能建材 (ガラス・窓・断熱材)	補助対象経費の1/3以内	戸建住宅 1戸当たり: 120万円 集合住宅 1戸ごとに: 15万円
家庭用蓄電池	設備費	3万円/kWh
	工事費	補助対象経費の1/3以内
家庭用蓄熱設備	補助対象経費の1/3以内	5万円/台

国により新たに2つの断熱リノベーション補助への申請の募集が開始される。新たな建材・設備が対象になるなど、断熱リノベーションの市場拡大を促しそうだ。

経産省の「次世代省エネ建材支援事業」で対象製品の詳細はSIIが審査のうえ補助対象製品一覧として登録、公表する。対象製品の第1回の公表は5月中旬、第2回の公表は6月中旬を予定、第3回以降の公表につ

いては、随時SIIホームページで公開する。又、全国で説会が実施される。5/18(金)東京を皮切りに、5/21(月)札幌、5/21(月)福岡、5/22(火)仙台、5/22(火)大阪、5/23(水)名古屋というスケジュールとなっており、説明会の事前エントリーは5月初旬を予定している。

環境省も5月から「高性能建材による住宅の断熱リフォーム支援事業」で断熱リノベーションへの補助申請の受け付けを開始する。戸建住宅については、家庭用蓄電池か家庭用蓄熱設備を設置する際にも設備費と工事費を支援する。ただし、住宅用太陽光発電(10kWh未滿)を設置しており、2019年11月までにFITの契約が終了する人が対象。

情報提供: 経産省・環境省

意匠性に優れた最高グレードの不燃壁材発売

大建工業は、不燃壁材のフラッグシップモデルとして、軽量で加工性に優れた素材「ダイライト」に、深彫調のエンボス加工と特殊多彩塗装を施すことで、シャープ陰影とリアルな素材感を実現した「GRAVIO EDGE(グラビオ エッジ)」を、6月21日(木)に新発売。



住宅においては、クロス張り仕上げが主流となる中、近年のトレンドとして、壁面に石やタイルなどをアクセントとして使用した、上質で素材感ある意匠が増加傾向です。「グラビオエッジ」の一番の特長は、深彫調の高い意匠性です。エンボス形状に工夫を施し、シャープな陰影を表現。さらに、特殊多彩塗装によって、凹凸に同調したリアルな色柄を実現いたしました。また、意匠性だけでなく、ダイライト基材ならではの軽さ、加工性の良さはもちろん、9mm×455mm×1820mmの大判サイズでのご提供により、施工性にも大変優れた製品となっている。価格(税抜)19,700円/梱(1.65㎡)、2枚入り

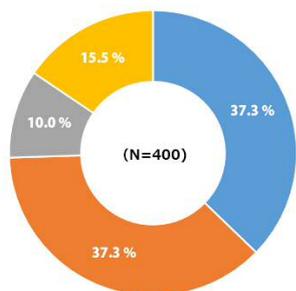


情報提供: 大建工業

共働き世帯の住宅購入、37.3%が予算オーバー

[Q] 検討当初の予算と、実際の購入金額に差はありましたか? (単一回答)

■ 予算より、実際の購入金額のほうがオーバーした ■ 予算と、実際の購入金額がほぼ変わらなかった
■ 予算より、実際の購入金額のほうが安くなった ■ 分からない、覚えていない



リクルート住まいカンパニーが運営する不動産・住宅サイト「SUUMO(スーモ)」は4月26日、マイホームを購入した共働き世帯の妻400人を対象に実施した「マイホーム購入調査」の結果を発表した。それによると、「予算より実際の購入金額のほうがオーバーした」人は37.3%で、「予算とほぼ変わらなかった」人と同数だったことがわかった。

オーバーした人は新築注文住宅、新築分譲住宅が圧倒的に多く、内装や設備機器などにこだわってしまいがちなことが影響していると考えられる。

住宅購入の頭金は、49.8%の人が「夫婦共同の貯蓄から」と回答。金額は「200万円未滿」(24.1%)、「200万~400万円未滿」(13.7%)、「400万円~600万円未滿」(11.9%)だった。妻あるいは夫の個人貯蓄から出した人は、いずれも20%弱だった。

情報提供: 新築ハウジング